

2006 年度 防災教育チャレンジプラン 学校法人遺愛学院 遺愛女子中学高等学校

資料

- 1) 北海道新聞の記事
- 2) ボランティア募集のプリント
- 3) 「ようこそ遺愛へ」 杉並町会回覧板用ちら
- 4) 本館、講堂、ホワイトハウスの来客用説明
- 5) 一般公開と防災訓練のお知らせ
- 6) 防災意識調査アンケート
- 7) 「緊急時の避難先・連絡先確認のお願い」
(家庭へのプリント)
- 8) 防災訓練要項
- 9) 文化財である学校（文化庁資料）
- 10) 私学ニュースへの原稿

文化財の校舎守りたい

消防庁などが主催する本年度の「防災教育チャレンジプラン」実践団体結果となった。選ばれた遺愛学院遺愛女子中・高校（野田義成校長）がこのほど、生徒を対象に防災意識に関するアンケートを行った。文化財として貴重な校舎について、約八割が現状の維持を望む結果となった。

消防庁などが主催する本年度の「防災教育チャレンジプラン」実践団体結果となった。選ばれた遺愛学院遺愛女子中・高校（野田義成校長）がこのほど、生徒を対象に防災意識に関するアンケートを行った。文化財として貴重な校舎について、約八割が現状の維持を望む結果となった。

遺愛中・高生に防災意識調査

8割「今のままで」

同プランの実践団体は、認定されて以来、同校は地域と連携して防災活動に積極的に取り組む。六月には新体育館を非常時の避難場所として地域住民に開放することを決めたほか、七月には周辺町会と合同で放水訓練も行った。

（石川泰士）



遺愛文化財に指定されている遺愛学院の校舎。学校、住民が一体となって防災を考えていく。

函館・遺愛女子高

文化財災害から守れ

教育プラン実践団体に地域と連携し訓練も

遺愛学院遺愛女子高（野田義成校長）が、本年度の「防災教育チャレンジプラン」の実践団体として選出された。同校は、防災意識の向上を図るため、同校の校舎（重要文化財）の指定を受けている。校舎は、国指定の重要文化財（重文）に指定されている。校舎は、国指定の重要文化財（重文）に指定されている。

（鈴木雄二）

同プランは、防災教育の推進を図るため、国指定の重要文化財（重文）に指定されている校舎（重要文化財）の指定を受けている。校舎は、国指定の重要文化財（重文）に指定されている。校舎は、国指定の重要文化財（重文）に指定されている。

同校では、本年度、新築した体育館に、本館元来のシステムや雨水貯水タンクなどを設置。災害時には、地域住民の避難場所として開放することも予定している。増田重孝校長は、「生徒はもちろんだが、地域の皆さんにも身近に文化財があることを理解してもらい、防災意識を高めることが大切だ」と話している。

＜防災チャレンジボランティア関係＞ 2006. 6. 8

6月19日(月) 13:10 講堂にて生徒対象ボランティアの内容説明会

※ 説明会は必ず人数+若干名が集まったら募集を止める日程を早めたい。

＜説明会＞ ① 体育館
会議室
講堂
経路係
ホワイトス
夜付

→ 仕事の内容についてプリントを配布して説明。

② 仕事内容を説明した上で、各係の希望調査をする。→ その場で回収

6月20日(火) HR(朝)

＜各係の名簿を担任を通して該当生徒に渡してもらう＞ → 各係のテーフと連絡

6月22日(水) 13:10 会議室にてテーフ対象打合せ会

＜打合せ＞ ① 仕事内容の確認と連絡 → プリントを配布して当日の流れを確認
② 仕事についての不明な点を確認

6月23日(金) 13:10 講堂にて参加者全員に当日の流れについて伝達確認

- ① 仕事内容
- ② 各係のテーフ紹介
- ③ 集合時間
- ④ その他

＜確認事項＞ 1) 当日受付での配布物
2) 当日の貴重品の管理
3) 施設の説明原稿
4) 集合時間 (12:00?) → 湯淵ボランティアとの関係 (受付係は防災チャレンジ17) 参加生徒に知らせ
5) その他

→ 説明会までに用意

- ・ 体育館玄関スリッパ
- ・ ライト館玄関スリッパ箱 → 前日準備
- ・ ホワイトハウススリッパ
- ・ 校内外関係者へ

杉並町会のみなさま

ようこそ遺愛へ 明治の学び舎と防災



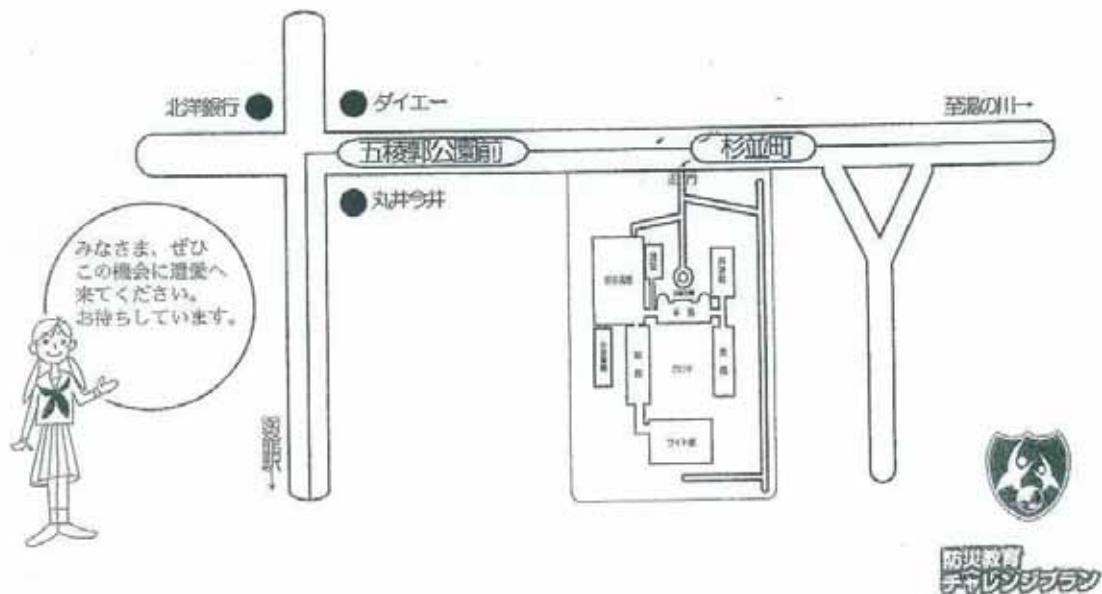
遺愛女子中学・高等学校
〒041-8543 函館市杉並町23-11
TEL 0138-51-0418 FAX 0138-51-7150
HP <http://www.iaijoshi-he.de.jp>

6月24日（土）
午後1時より開始
（集合：新体育館）

工事中は何かとご迷惑をおかけしましたが、遺愛の新体育館がやっと完成しました。以前の体育館の2倍以上の広さを持ち、防災設備も十分に整っております。災害の際には地域の避難場所として、使っていただきたいと考え校舎や施設の見学会を企画いたしました。ふるってお越し下さい。

当日は新しい施設の見学のほかに、新体操・合唱など生徒達の部活動の発表、重要文化財に指定された校舎の見学などを予定しております。

学校法人遺愛学院
遺愛女子中学・高等学校



この建物の正式名称は「旧道愛女学校宣教師館」といい、宣教師の宿舎として建築されました。通称「ホワイトハウス」と呼ばれています。1908年（明治41年）、元町にあった校舎が拡張のため現在の場所に移転になり、同時にこの宣教師館も建設されました。その当時からホワイトハウスと呼ばれていたそうです。建物は木造の2階建てで、基礎はレンガ積みです。また、外壁は白のオイルペイント塗装、屋根は後に鉄板に葺き替えられましたが、建築当時は黒色の便利瓦で作られていました。設計は、本校の本館を設計したジェームズ・マクドナルド・ガーディナーによるものと推測されています。今なお、当時のアメリカ建築様式を取り入れた明治洋風建築の傑作として高い評判をいただいています。

ホワイトハウスは建築以来、歴代女性宣教師や校長先生の住居として昭和40年代半ばまで使用されていました。洋館と和館があり、洋館では宣教師が、和館では使用人の日本人が生活していました。また各部屋には当時から利用されていたベッドや机、椅子などの家具、暖炉、シャンデリアなどが今もそのまま置かれています。1982年（昭和57年）には北海道有形文化財に指定され、さらに2001年6月には、国の重要文化財に指定されました。現在は、住居としては使用されておらず、PTA行事のお茶会や聖書研究会を開くのに時々利用しています。また、国の重要文化財に指定されたということで、同窓生や観光客の方々が季節を問わず見学に来ています。毎年7月の末には一般の方向けに内部を公開していますので、ぜひともまたいらっしやうて下さい。

2006年6月9日

本館と講堂の説明

これから本館と講堂について紹介いたします。ただいま皆様が進んで来た途中、体育館から急に重厚な木造の建物に入りましたが、その建物が本館とよばれる建物です。まず本館について紹介します。

本館について

道愛は明治41年に函館山から校舎を移転したのですが、本館はそのときに建てられたままの建物です。今年で建築されてから98年たちました。旧宣教師館であるホワイトハウスと並んで道愛では最も古く、両方の建物とも国の重要文化財になっています。

長い間設計者が誰だか、わからなかったのですが、5年前の2001年10月に偶然、本館の応接室の収納庫から文書が発見され、東京のガーディナー建築事務所が設計を請け負ったことがわかりました。請負価格は当時で5万円でした。ガーディナーは、アメリカの名門ハーバード大学出身で立教大学の初代の校長をされた方です。

本館のなかで最も注目すべき部分が、今の会議室です。二股の階段を左手に登った3階にあります。当時は講堂として使われ、毎朝礼拝が守られていました。天井が高くトスカナ式円柱が四隅（よすみ）を支える構造となっています。あとでじっくりご覧下さい。歴代の校長先生の写真や古い資料なども展示されています。

次に今、皆さんがいらっしやる講堂について説明いたします。

講堂について

この講堂は1935年（昭和10年）に、ヴォーリス建築事務所によって設計され、竹中工務店が施工（せこう）しました。収容人数 600 名、建築費は当時のお金で 1 万 8600 円でした。道愛では、毎朝ここで礼拝が守られています。

ヴォーリスは若いときに建築家を夢みますが、ある講演会をきっかけに、初任教の外国伝道をこころざします。明治 38 年に英語の教師、伝道者として来日しますが、教師は断念し、メンソレータムで有名な滋賀県の近江兄弟社を設立し、医薬品販売とともに、建築設計を行い、関西学院大学や神戸女学院大学を建設しました。その当時彼により作られた関西にある建物はとても丈夫で阪神大震災を耐え抜き、しかも今なお、品と歴史性を感じさせるものばかりです。今、お座りの長イスもヴォーリス作製のものですし、道愛の入り口の門は、最近ヴォーリス社に作っていただきました。

ところで、左手にあるパイプオルガンは創立 100 周年のときに、PTAがバザーなどでお金を蓄（たくわ）えて寄付してくれたものです。ドイツのボッシュ社によるもので、ドイツから部品が送られ、ドイツ人のマイスターが来日し、自らこの講堂で組み立てました。各種コンサートにも使われています。市内では一番大きなパイプオルガンです。

資料 4) 本館、講堂、ホワイトハウスの来客用説明

ホワイトハウス説明

この建物の正式名称は「旧連立女学校宣教師館」といい、宣教師の留舎として建築されました。通称「ホワイトハウス」と呼ばれています。1908年（明治41年）、元町にあった校舎が拡張のため現在の場所に移転になり、同時にこの宣教師館も建設されました。その当時からホワイトハウスと呼ばれていたそうです。建物は木造の2階建てで、基礎はレンガ積みです。また、外壁は白のオイルペイント塗料。建物は後に修繕に費えられましたが、建築当時は黒色の板瓦で作られていました。設計は、本校の本館を設計したジェームズ・マクドナルド・ガーディナーによるものと推測されています。今なお、当時のアメリカ建築様式を取り入れた明治洋風建築の傑作として高い評判をいただいています。

ホワイトハウスは建築以来、歴代女性宣教師や校長先生の住居として昭和40年代半ばまで使用されていました。洋館と和館があり、洋館では宣教師が、和館では使用人の日本人が生活していました。また各部屋には当時から利用されていたベッドや机、椅子などの家具、暖炉、シャンデリアなどが今もそのまま置かれています。1982年（昭和57年）には北海道有形文化財に指定され、さらに2001年6月には、国の重要文化財に指定されました。現在は、住居としては使用されておらず、PTA行事のお茶会や図書研究会を開くのに時々利用しています。また、国の重要文化財に指定されたということで、同窓生や観光客の方々が季節を問わず見学に来ています。毎年7月の末には一般の方向けに内部を公開していますので、ぜひともまたいらっしやうて下さい。

2006年6月9日

本館と講堂の説明

これから本館と講堂について紹介いたします。ただいま皆様が少ないときで、体育館から急に重厚な木造の建物に入りましたが、その建物が本館とよばれる建物です。まず本館について紹介します。

本館について

連立は明治41年に函館山から校舎を移転したのですが、本館はそのときに建てられたままの建物です。今年で建築してから98年たちました。旧宣教師館であるホワイトハウスと並んで連立では最も古く、両方の建物とも国の重要文化財になっています。

長い間設計者が誰だか、わからなかったのですが、5年前の2001年10月に偶然、本館の応接室の収納庫から文書が発見され、東京のガーディナー建築事務所が設計を請け負ったことがわかりました。請負価格は当時で5万円でした。ガーディナーは、アメリカの名門「ハーバード」大学出身で立教大学の初代の校長をされた方です。

本館のなかで最も注目すべき部分、今の会議室です。二枚の階段を左手に登った2階にあります。当時は講堂として使われ、毎朝礼拝が守られていました。天井が高くスカナ式円柱が四隅（よすみ）を支える構造となっています。あとでじっくりご覧下さい。歴代の校長先生の写真や古い資料なども展示されています。

次に今、皆さんがいらっしやる講堂について説明いたします。

講堂について

この講堂は1935年（昭和10年）に、ヴォーリス建築事務所によって設計され、竹中工務店が施工（せこう）しました。収容人数 600 名。建築費は当時のお金で1万 8600 円でした。連立では、毎朝ここで礼拝が守られています。

ヴォーリスは若いときに建築家を夢みますが、ある講演会をきっかけに、村松の外国伝道所（たぐわ）で宣教師として働き、明治34年に英語の教師、伝道者として来日しますが、教師は断念し、メソヂエタムで有名な徳島県の近江兄弟社を設立し、医薬品販売とともに、建築設計を行い、関西学院大学や神戸女学院大学を建設しました。その当時彼により作られた関西にある建物はとても丈夫で阪神大震災を耐え抜き、しかも今なお、品と歴史性を感じさせるものばかりです。今、お座りの長イスもヴォーリス作製のものでし。連立の入り口の門は、最近ヴォーリス社に作っていただきました。

ところで、左手にあるパイプオルガンは創立100周年のときに、PTAがバザーなどでお金を寄（たぐわ）えて寄付してくれたものです。ドイツのボッシュ社によるもので、ドイツから部品が送られ、ドイツ人のマイスターが来日し、自らこの講堂で組み立てました。各種コンサートにも使われています。市内では一番大きなパイプオルガンです。

これから本校の音楽部による演奏があります。楽しんでいただければ幸いです。

資料 5) 一般公開と防災訓練のお知らせ

旧宣教師館一般公開並びに防災訓練のお知らせ

遺愛女子中学・高等学校

下記に日程により旧宣教師館の一般公開及び防災訓練を行います。

記

一般公開

日時 2006 年 7 月 27 日(木)より 7 月 29 日(土)
午前 10 時より 午後 2 時まで (3 日間とも)
場所 学校法人 遺愛学院 旧宣教師館 (国の重要文化財)
内容 本校生徒による受付、各室案内、庭にて麦茶の奉仕

防災訓練

日時 2006 年 7 月 29 日 午後 3 時より
場所 学校法人 遺愛学院 旧宣教師館
要領 1. 旧宣教師館よりの出火を想定し、教職員による消火栓
よりの放水訓練
2. 生徒による消火器の取扱および実地訓練
3. 函館東消防署員による訓話

- 函館市東消防予防課のご協力を受け、消火栓放水および消火器使用の指導を受ける。
- この防災訓練は防災教育チャレンジプランの一環として行う。
- 杉並町、函館市総務部防災係、函館市教育委員会文化財課に視察の依頼を行う。

以上

資料 6) 防災意識調査アンケート

遼東女子中学・高等学校 防災意識調査アンケート

防災チャレンジ委員会

年・月 年 月 日 (両者は不要です)

遼東女子中学・高等学校では今年「防災教育チャレンジプラン」に参加し、「文化財である社会資源から守るために、私たちに出来ること」と題して防災教育に取り組んでいます。以下のアンケートにお答えください。

質問 1 今後10年以内に、遼東あるいはその周辺で、次の災害が起こる可能性はどれくらいあると思いますか。該当する番号を記入してください。

1. 必ず起こると思う。 2. 起こる可能性はかなり高いと思う。
3. 半分ぐらいの確率で起こると思う。 4. 起こる可能性は低いと思う。
5. 起こらないと思う。

- (1) 震度6以上の大地震
(2) 幹や枝の破断による被害
(3) 大型台風による被害
(4) 雷害による被害
(5) 津波による被害
(6) 駅近郊の浸水による被害 (近くに発生する可能性)
(7) 土石による被害
(8) 大雨による被害
(9) 大規模な火災による被害
(10) ミサイルなど兵器による被害

質問 2 あなたの家庭では災害に備えてどんなことを行っていますか。該当する番号を記入してください。

1. 十分やっている 2. 少しはやっている
3. ほとんどやっていない 4. まったくやっていない。
5. わからない。

- (1) 非常持ち出しを用意している。
(2) 家具類の固定をしている。
(3) ガラス窓防止をしている。
(4) 風呂にいつも水を入れておく (生活用水の確保)
(5) 食料、飲料水を備蓄している
(6) 家族の連絡方法を決めている。
(7) 消火器を用意している。
(8) 地域の避難訓練に参加している。
(9) 災害時の避難方法を決めている。
(10) 避難場所を知っている。

質問 3

A) 遼東には本館やお白トハウスなど古い建造の建物があります。あなたはどのような建物をお持ちですか。

1. 古いので新しい建物の建物に建て替えたほうが良い。
2. 建物の倒壊などの心配は今のままでよい。
3. どちらでもない。

B) 遼東の本館やお白トハウスは文化財なのですが、何という文化財ですか。

1. 国定
2. 国の重要文化財
3. 国の登録有形文化財
4. 北海道指定の重要文化財
5. 市町村指定の文化財

C) 本館の修復で被害を受けたいと思いますが、

1. ぜひ被害を受けてみたい。
2. たまにならぬ。
3. 古いので被害を受けたくない。
4. どちらでも良い。

D) 遼東の建物の中で一番好きな建物を教えてください。

1. 新体育館
2. 新館や本館のH.H.のある建物
3. ライト館
4. ホワイトハウス
5. 本館
6. 講堂
7. 特に関心

E) 本年「防災教育チャレンジプラン」に「文化財である社会資源から守るために、私たちに出来ること」と題して取り組んでいます。この取組に対してどのようにお考えですか。

1. 自分で出来ることがあれば協力する。
2. 協力しない。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

災害に対する危機意識について

(10年以内に災害が起こる可能性の見積もり)

(1) 震度6以上の大地震



(2) 幹や枝の破断による被害

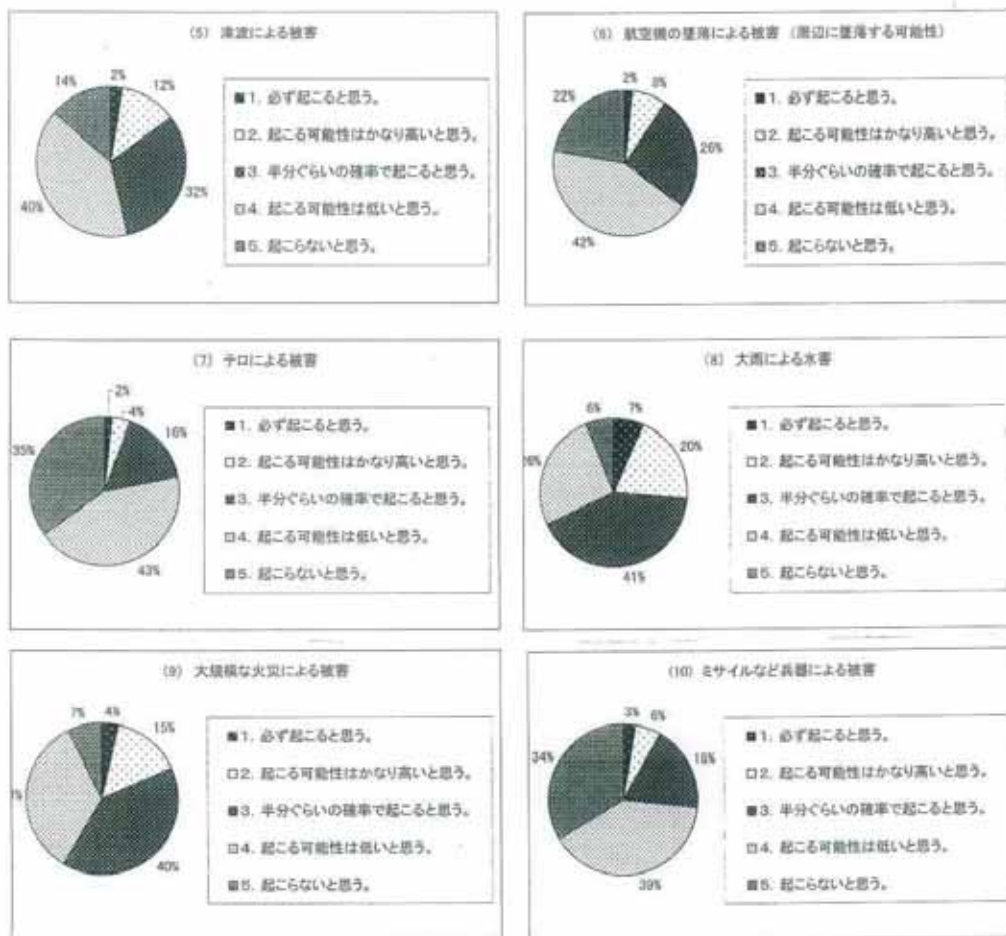


(3) 大型台風による被害

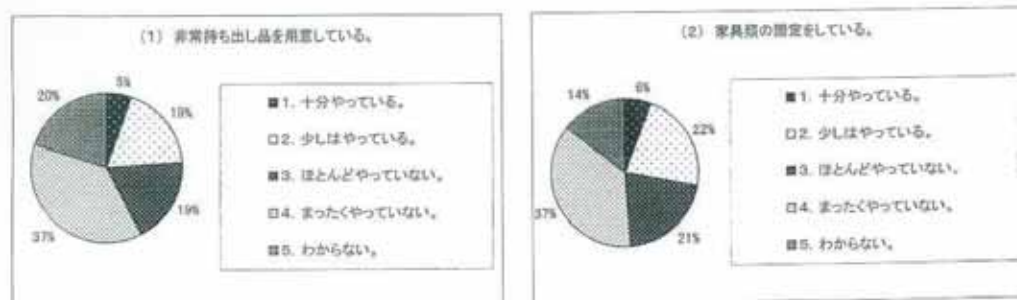


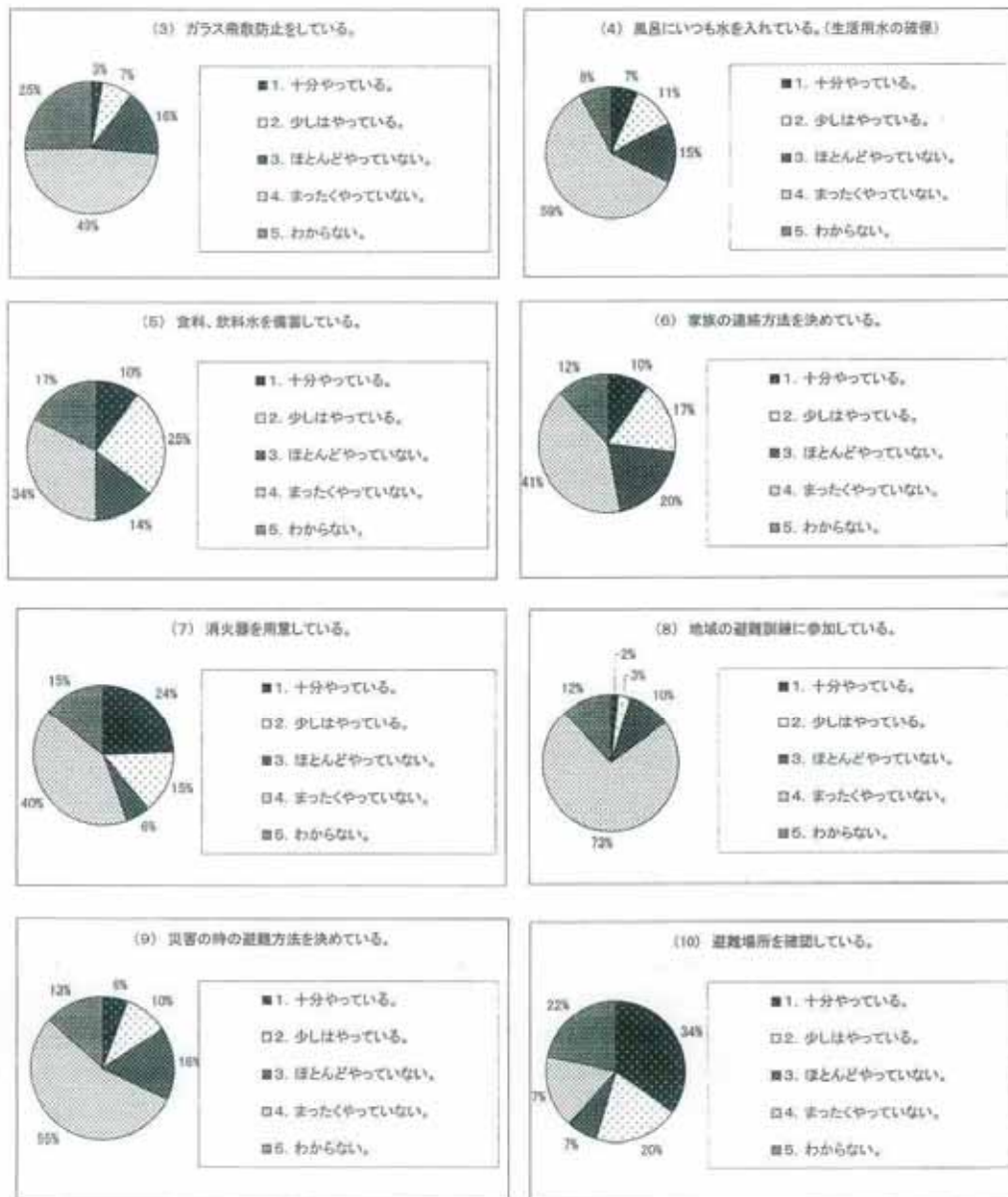
(4) 落雷による被害



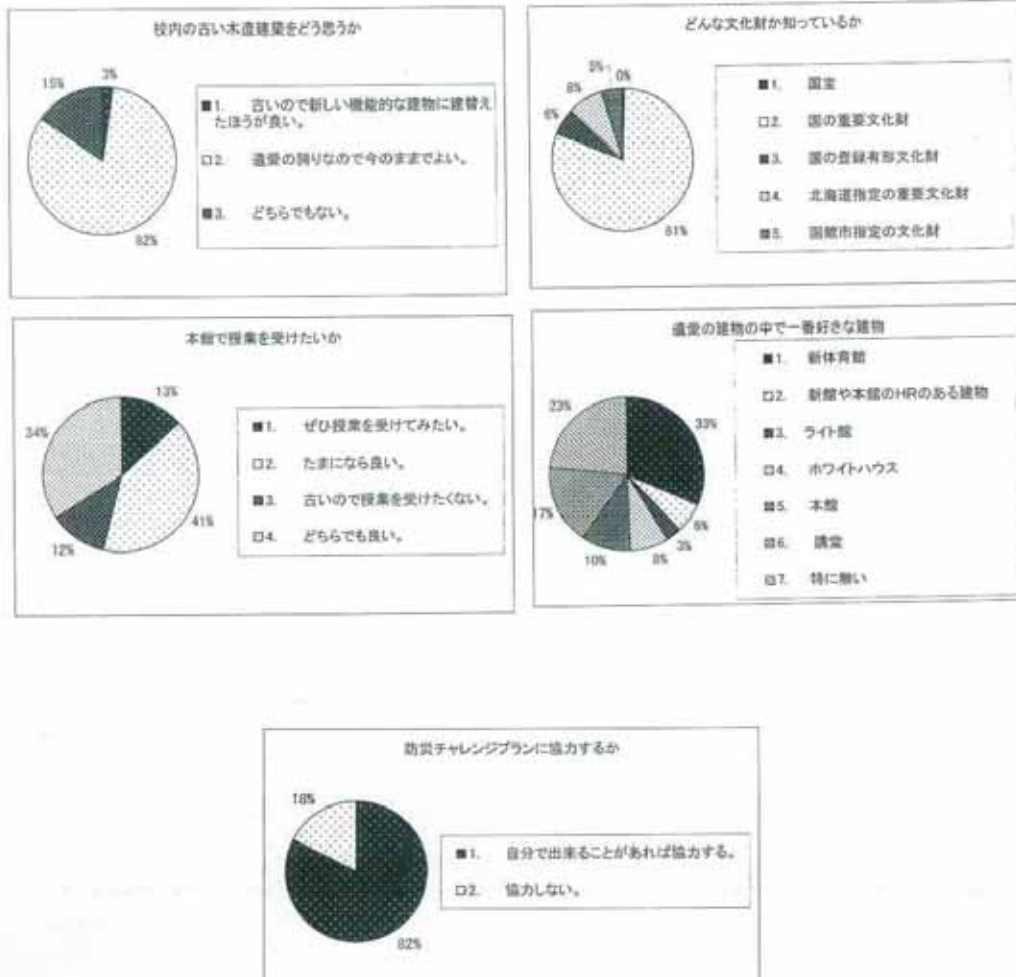


災害に対する備えについて





校舎に対する意識について



資料 7)「緊急時の避難先・連絡先確認のお願い」(家庭へのプリント)

2006 年 9 月 26 日 (火)

保護者各位

遺愛女子中学高等学校
 学校長 野田 義成
 防災チャレンジ委員会

緊急時の避難先・連絡先の確認のお願い

中秋の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より、遺愛の教育活動に深いご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、遺愛は今年、文化庁の指導のもと、『防災教育チャレンジプラン』に参加し、「文化財である校舎を災害から守るために、私たちにできる事」と題して、防災教育に取り組んでいます。6 月には遺愛のまわりの町内会の方々をお招きし、避難場所としての遺愛を知っていただき、あわせて本館や初伊ハス(旧宣教師館)、講堂などの国の文化財を見学していただきました。また、7 月末には 3 日間初伊ハスを一般公開し、最終日に消防署に来ていただき、火災に備えて放水訓練をしました。また、9 月 5 日には遺愛の中学・高校生全員にアンケートをとり、どのくらい防災意識をもっているか調査しました。そして本日 9 月 26 日には、午後の時間をさき避難訓練を行い、その後、文化庁調査官の長尾氏により「遺愛の文化財の歴史的価値について」講演していただきました。

これらの取り組みのなかで、生徒のアンケート結果より気になる点がありましたので、ご家庭でもお話し合い・確認を、ぜひしていただければと思います。

生徒たち自身、地震、噴火、台風、大雨の被害の可能性を予測しつつも、家庭で十分な災害に対する備えをしていないということがアンケート結果より見えてきました。具体的には、

「災害時の家族の連絡方法を定めているか？」	72.9%の生徒が定めていない。
「災害時の避難方法を定めているか？」	84.0%の生徒が定めていない。
「避難場所を知っているか？」	45.4%の生徒が知らない。
	と答えていました。

学校にいる時の災害は、学校が避難所になりますが、帰宅途中、外出中はどうするか？ぜひ話し合っておいて下さい。連絡方法については、災害時は携帯電話が使用できないので、どうするか？また、自宅の指定の避難場所も家族で確認しておいて下さい。

災害は起こってほしくないのですが、いつ起こるか分かりません。もしもの事態に備えて、家族の間でも充分その対応について、話し合い確認しあって下されば幸いです。

以上

資料 8) 防災訓練要項

2006年9月22日

遺愛避難訓練要項

日時:2006年9月26日(火) 第5・6限目

(訓練の流れ)

*担任は当日の出欠席数をきちんと事前に把握しておいてください。

1. **13時35分:科学館調理室より出火**
2. 警報機作動
3. 警報機により出火場所確認
4. 事務室より消防署へ避難訓練であることを通知し、緊急放送により全校へ出火場所、避難の指令をだす(通報班 長尾)
5. 各室からの避難、誘導は教科担当者による(貴重品を持たせる)
6. 防火扉の閉鎖(鈴木、町田、進藤)、科学館、本館、東館
7. **全員大体育館へ集合**(HR担任は各自クラスの人数を確認し、**副校長へ報告**)
各クラスの座席へ座る。 体育館ステージ前にいます。
8. 消防関係者より講評を聞き、文化庁の調査官の御講演を聞く。

(避難経路)

- *東館(中学生)・科学館・本館は、体育館中央の入口から入場。
- *新館1階(高3) 体育館の足洗い場より体育館内に入場。
- *新館2階(高2) 新館1階に階段でおりて、体育館手前の入口から入場。
- *新館3階(高1) 新館2階まで階段でおりて、体育館2階ギャラリーを通り、階段を下りて、体育館玄関入口から入場

(注意)

- * **きちんと靴をはかせて下さい。**
- * スモークマシンを用意するので、避難する際は口を押さえ、身を低くして迅速に避難する。その際に生徒にはおしゃべりをさせない。
- * 授業担当者は生徒を体育館まで誘導、避難をお願いします。

資料10) 私学ニュースへの原稿

防災チャレンジプランについて

遠愛女子中学高等学校 西谷優一

今年、遠愛は防災チャレンジプランの実践団体になり、様々な活動をしてまいりましたので、それについて報告させていただきます。

「防災チャレンジプラン」とは、林春男京都大学防災研究所教授を委員長とした（防災に関係した各省庁の代表者、研究者、民間の専門家などからなる）防災チャレンジ委員会が主体となって2001年度から実施しているもので、「次の世代を担う子供達を中心とした家庭や地域の防災に関わる能力の向上を図ることにより社会全体の防災力を向上させることを使命として防災教育を多くの人々に紹介し、実践してもらう取り組み」と定義されています。詳しい内容は

<http://www.bosai-study.net/top.html>

のHPをご覧ください。

遠愛では、「文化財である校舎を災害から守るために、私たちに出来ること」というテーマのもと、周辺地域である、杉並町会との連携、生徒の防災意識の高揚を目標に、様々なイベントを実施してきました。上記HPには、中間発表のときの原稿（パワーポイント）も公開されています。

実際にこのような取り組みをやってみて気がついたことがいくつかあります。

- 1) 生徒にアンケートを実施してみて、函館市は過去に大火、火山噴火、地震、飛行機の事故など、過去に多くの災害を経験している地域であるにもかかわらず、他の地域と比較してみると、市民にかなり防災意識が欠如していること。
- 2) 函館市も大規模災害が起きたときの防災マニュアルをしっかりと徹底していないので、学校で（行政任せにしないで）しっかり防災マニュアルをつくっておくべきだということ。特に私立の学校は、協力して具体的な行動プランを取り決める必要があるということ。
- 3) 学校周辺の地域住民との、持ちつ持たれつの関係は学校にとって大切だということ。

これらの点を、十分に考慮して、「必修科目より大切な」防災教育を、漏れることなく進めて欲しいと思います。